

【概況】

当日の流れ

- 10:00～ 妊婦体験ジャケットの作成と所感の共有
- 11:00～ 外出 | カフェテルベにて昼食
- 12:30～ 帰宅・前半のシェア
- 13:00～ 妊婦体験.1<大明図書室の掃除！>
- 13:30～ 妊婦体験.2<だるまさんが転んだ>
- 14:00～ 全体の振り返り

◆ 取り組みを通しての実施・確定事項

① 妊婦体験ジャケットの新しい作り方を説明する資料を作る

- (1) 妊婦体験ジャケットの作成はリュックを前後逆に背負うことで簡単に作ることができる。重りをいれて着用することで、着用感が高まり、かつ、作成が簡便になる。
- (2) 現状上記のノウハウを持っている団体はいないため、作成手順をまとめた資料を作成し、妊婦体験を気軽に実施できる素地としたい。

② 長時間にわたる妊婦体験イベントの開催

- (1) 総じて長時間にわたる妊婦体験時の体力の消耗は想像をしえないものがあつた。その分、この感覚のずれは、妊娠期における夫婦間のコミュニケーションの大きな障害となることが確認された。
- (2) コミュニケーションの障害の大きさを夫婦間で共有することが、コミュニケーションを円滑にすることにつながると考えられ、イベント開催の必要性が再認識された。

◆ 各アクティビティの所感

1. 妊婦体験ジャケットの作成

作成に当たっては <http://www.ne.jp/asahi/news/net/kan/>を参考とした。参照サイトに準じた作成をした場合、以下の点に留意する必要がある。

(ア) 砂を使った重りの作成について

- 1. 砂を入れる袋が破ける懸念があるため、購入時の砂袋をそのまま使う。もしくは厚手の袋を用意する。
- 2. 袋が薄い場合には、砂を小分けにする。
- 3. 作業時には床にビニールシートを敷くか屋外で実施する。
- 4. 可能な限り初めから 10 キロの砂を買う。

(イ) 自作妊婦体験ジャケット着用にあたって

1. 首に負担が集中するため、パーカーの襟を内側に折るなどし保護が必要。
2. 砂袋がパーカーの間から落ちてきそうになるため、長時間の移動時はとくに注意が必要。

2. 今後の作成にあたって

以下の方法での作成が簡便で、より安価に作成が可能との結論に至った。また、下記方法での作成したものを実際に着用したところ保健所で借りた妊婦体験ジャケットにより近い着用感が得られた。

(ア) 必要部材と作成手順

(必要部材)

1. 10 キロの砂
2. 私物のリュックサック
3. あればパーカーなど羽織もの

(作成手順)

1. 持参したリュックに袋にいれるなどした砂を入れる
2. 前後逆にリュックを背負い、背中は胸ベルトで固定する
3. より密着するように、パーカーまたはエプロンを着用する
参考)胸ベルト:アウトドア用のリュックサックにはついている場合が多い。
ついていない場合は 500 円程度で胸ベルト、という名称で小売されているのでそれを購入

3. 妊婦キット装着の感想

- ① 15 分も着たくない。
- ② 腰が痛い。
- ③ 座りたくなる。
- ④ 上下運動がきつい。
- ⑤ お腹を触りたくなる。
- ⑥ 砂が冷たい。
- ⑦ 行動範囲が狭くなる。狭くなる気持ちが分かる。

4. 昼食までの散歩での気づき

- ① 季節次第で、風が寒い。
- ② 階段の登りがきつい。
- ③ 段差が見えない。

- ④ 靴が履きにくい。
- ⑤ 靴ひもを結べない。
- ⑥ 何もなくてもつまずく危険性がある。
- ⑦ 信号の青の時間が短くて怖い。
- ⑧ 走る気には絶対ならない。
- ⑨ 座るところが欲しい。
- ⑩ 10分に1回休みたい。
- ⑪ 知らない所に行きたくない。
- ⑫ 1キロ=通常12分のところがものすごく遠く感じる。

5. 昼ご飯・お店での気づき

- ① スープが食べづらい。こぼしそうになる。
- ② コップを倒しそうになる。届かない。
- ③ 料理はできるだけ近くに置いて欲しい。
- ④ 通路が狭いとぶつかって何か壊しそうで怖い。狭いお店には入りたくない。
- ⑤ カウンターには座りたくない。
- ⑥ テーブル会計にして欲しい。
- ⑦ 眠くなる。
- ⑧ コンビニは通路が狭い。

6. 妊婦体験1 掃除の感想

- ① 掃除機の導線も気になってくる。
- ② 座ったり立ったり繰り返すのは大変。⇒旦那さんが率先してやる！！

7. その他気づいたこと

- ① 低いイスは立てなくなる。
- ② 動きたくなくなるので、行動範囲が狭くなる。
- ③ 動きたくなくなるので、お喋りしたくなる。
- ④ パーカーでの妊婦体験ジャケットは3時間が限界。

8. 今後の展開

- ・妊婦体験ジャケット作成イベント……今回のイベントを基に、作成&体験イベントの開催
- ・妊婦体験ジャケット着用しての池袋子育て講座の出席・レポート

子育て講座の認知拡大と更なる妊婦体験の知見蓄積のため
既存の子育て講座へ出席しレポートを行う

【事務局の振り返り】

◇改善点

・ まちに出る際に、通行人の方に話しかけられることもあったので、わかりやすい説明の旗などがあると良かった。

○良かった点

・1つのワークを終えるごとに、ホワイトボードを使って気づいた点を書き留めていた事。最後に行った振り返りも効果的に行う事ができた。

【当日の様子】



【実践2】 実施内容

(2)「自分の“働く”は自分でつくる!

～人と人をつなぐツクルバから見える、“オンリーワン”な歩き方～」

日時:3月10日(日)14:00～16:00

場所:みらい館大明 図書室

参加人数:15名

【目的】(※企画書 P65より)

働き方の選択肢が広がっている今、若者の「働き方」について可能性を広げるための機会として開催する。ロールモデル(お手本)となる最前線の大人と若者が直接話し、学べる場を提供する。

【概況】

当日の流れ

14:00～14:10 今回、講座を開いた思い(異業種チームより挨拶)

14:10～15:00 中村真広さんの講話

15:00～15:20 参加者同士の交流 (休憩を交えつつ)

(なぜ、今日参加したのか?期待している事、参加者の問題意識、中村さんの話を聞いた感想等を共有)

15:20～15:50 中村さんを交えて Q&A、ディスカッション

15:50～16:00 締め、アンケート記入

異業種チームがテーマとして掲げた「若者ひとりひとりが納得できる生き方を見つけてもらう」＝「自分で仕事をつくる」とし、【後編】第2回にお邪魔した、渋谷にあるコワーキングスペース co-ba library を運営する株式会社ツクルバの中村真広さんが再登壇した。起業前にあたる大学時代から遡ってお話を伺い、そこから、参加者にとってロールモデルとなる「働き方＝生き方」のヒントをみつけてもらう。

- ・ 中村真広さんの大学院の「手を動かしながら過ごす」時代から、会社員「マンションの営業～ミュージアムデザイン事務所」時代の話へ。 並行して、逗子海岸の NPO の活動にも参加。

そこで新しいプロジェクトを考える経験を積む。

→NPOで、リスクのない状況で「新しいことをやってみる」ことを経験。その後、当時のつながりがとても活き、その後の活動も応援してもらえるように。

「Appleのスティーブ・ジョブズの言葉を引用しますが、「自分が世界を変えられると本気で信じる人たち事が、本当に世界を変えていけるのだから」というAppleのスティーブ・ジョブズの言葉が本質を捉えていると思う。例えば、星座はストーリーを勝手につくる。星座をつくるように、やりたいことを見立ててほしい。企画書まで行かなくても、言葉にしていくことも大事。」

講演後は、近くに座っている3～4人ごとにグループになり、感想やもっと聞いてみたい点等を共有。その後、Q&Aと参加者の感想を共有。

(Q&A)

Q: マイプロジェクトについて、出来る範囲でやられている？

A: 出来る範囲でまずやり始めていると思う。やってみて、学ぶことが多い。間違っていたら訂正をして、小さなアクションを重ねていく。そして、そこで出会った人を大事にしていく。

まず始める人はリーダーということになりますが、もう1人一緒にやってくれる人を見つけること。それがとても大事で、その後はフォロワーが増えていくと思う。

Qやりたいことを仕事にする。ためにビジネスにすることが難しい。どうすればいいのか？

A: 好きなことを仕事にする、ということは、独立したり、起業しないとできないわけではない。会社に勤めながらでもできる。仕事とプライベートをどこまで線引きするか。やりたいことをお金稼ぎが違ふ、という話になりがちだけど、まぜこぜでいいと思う。自分なりのちょうどいい線引きというか、バランスを見つけられたらいい。いいことで稼ぐ事が社会貢献。

【事務局の振り返り】

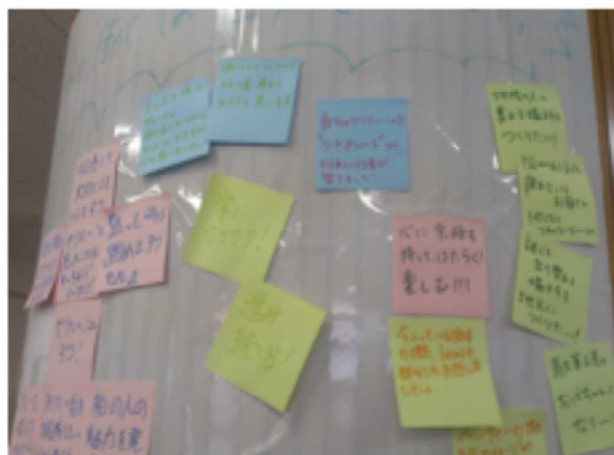
◇ 改善点

企画のブラッシュアップに時間がかかってしまったこと。

○良かった点

- ・当日は悪天候にもかかわらず欠席は2割程度にとどまった。
- ・参加者の様子を伺いながら、講座の構成をその場で改訂するなど臨機応変に対応できた。
- ・就職活動中の学生が多く参加し、やりたいことをビジネスとして考えるバランス・視点について知りたい様子が伺えた。
- ・今回は年齢制限をしなかったことで、社会人5年目以上の参加者もおおり、まぜこぜになって、参加者の疑問に答える等、まさに異業種交流が図られたように思われる。
- ・会場はリラックスした雰囲気が進められた。講師と参加者の距離が近いように、座布団やソファなどを使った雰囲気づくりと、参加者がひとり会場に到着するごとに、運営側が話しかけ、もてなす雰囲気ができていたことも大きい。講座終了後も1時間近く、運営者・参加者同士が熱心に話しあっている姿が印象的だった。

【当日の様子】



4. 総括(講座が活かされた点、改善点、今後の展開など)

『地域学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座』より得られる成果を講座開講前に「1.受講する若者自身の成果」「2. 受講した若者が実践することによる成果」「3. 講座がひろがっていくことによる成果」と設定。(下記、【得られた成果】を参照)

※ 成果の達成の検証方法として、事業開始前(受講申込時)と中間時期(毎回講座終了後)、事業終了期(講座最終回、実践を行ったチームはその終了後)にアンケートを実施し、若者自身が達成感を得られたか観測した。

「3.講座がひろがっていくことによる成果」は、今後の展開に依っているところもあるが、今回3ヶ月弱の開催のみであっても記載されている成果につながっている手応えを感じている。さらに、講座内で提案された企画書などとあわせてアンケートを集計すると、概ね設定通りの成果を得られたと考えられる。

参加者は、学生、社会人、専攻も業種も異なる10代～35歳までと多様になることで、より一層高い効果が得られたと考えられる。

詳細は講座各回アンケート、【実践】のアンケート(※別紙資料)をご覧ください。

【得られた成果】

1.受講する若者自身の成果

- 仲間とともに学びあう楽しさを知ることができる
- 若者自身が学びあいを通じて、知識と経験を得ることができる
- 若者が事業を通じて、自分を客観視でき、適正な評価軸を持つことができるようになる
- 自分の軸をみつけ、仲間や他者と向き合えるようになる
- 若者が自分のことを自分で決めて、それに自分で責任をとれるようになる
- 人との違いを認められる
- アドバイザーと定期的に話をし、ふりかえる機会をもつことで、自分自身の得意分野や苦手分野の気づきの場となる
- 若者が地域との付き合い方を知ることができる

2. 受講した若者が実践することによる成果

○事業を企画運営できる若者が増える

○地域に若者の居場所ができ、同じ立場で運営できるようになることから、若者の伴走者が増える

○同じ立場の若者が企画・運営することで、若者にとって関心の高い講座を企画運営することができ、参加者が増える

3. 講座がひろがっていくことによる成果

○若者の学びなおしの場ができる

○若者のトライ&エラーの場ができる

○地域を核とした若者支援事業を行うことで、地域での若者への理解が進む

○若者施策を柱にした、特徴ある生涯学習センターができる

○今ある地域資源が発掘でき、有効に活用することで、地域が活性化する

○若者自身が運営することで、持続可能な講座運営の仕組みができ、他地域でも活用できる

○顔が見える関係が増えることから、安心・安全なまちづくりにつながる

.....

全10回の講座を通して、携わっている分野が異なる6名の講師の方にご講演をいただいたが、どの方も一貫して話されていた事が「余白を残すこと」「作り込みすぎないこと」「コーディネートして生まれるものは、自分自身がワクワクするものであること」であった。

そのため、2回行ったプレゼンテーションは特に、丁寧に企画を積み上げるチーム、ユーモアを交えて講座そのものの雰囲気までイメージさせたチーム等、各チームの個性がより発揮されていた。また、学生から社会人まで、専攻も業種も異なる世代が集まり、同じ関心のあるテーマからチームを組んで実践まで行うことができたことも、自分にはないアイデア・視点などを知る大きな機会となり、大きなフィードバックを得られたと考えられる。

講座終了時には、4チームとも「継続して活動したい」と返答した。そのうち、3月に2チームが実際に実践まで行った。

【実践】に関しては、自分たちが感じている問題意識、今の社会に少し足りないもの、自分たちの手で足したいものを具体化し、実現までつないだ非常に素晴らしい成果となった。

2チームとも一度の実践から見えてきたことから、第2回目以降も継続して活動したいと回答があった。その後の展開について現在チームで話し合いが行われている。

一方、講座を終え、2チームの実践を行ったことで見えてきたこととして、「参加者が参加しやすい仕組み(活動を継続できる仕組み)」「地域との連携をより深めていくための工夫」が今後の課題として挙げられる。

コーディネーターとしての学びや活動は、企画書のみ作成して終わるのではなく「小さなことからでも実践すること」が重要であると講座の中でも触れられたが、その中で参加者が参加しやすい工夫(実践に関しては、活動し続けられる工夫)、またはやむを得ない事情で欠席しても講座についていける工夫が予想していた以上に大切な要素であると感じられた。

それは、高校生～35歳という若者世代を対象としたことで熱意のある若者が集まった一方、やる気がある分、学校・仕事以外にも関心を多く持ち、複数のコミュニティに参加していたり、すでに活動をしていたりする若者が比較的多く集まっていたためである。また、講座に魅力を感じ、片道2時間以上かかる遠方より申込をしてくださった方もいたが、前者は活動が多岐に渡ることによって物理的に講座参加が難しくなり、後者は移動の時間的制約が予想以上であったことを理由として、途中辞退が数名生じてしまった。(開催期間・日時に関しては、3ヶ月間の集中講義であったことは受講生の感想から適切な範囲内であったことが見受けられる。また、講座内の工夫として欠席者には当日の資料を配布、毎回講座の最初に前回のおさらい&共有を行った)

コーディネーターそのものを仕事として、生業として確立させるには、いまだ開拓の余地がある。しばらくは本業は別にありながら、例えば副業でコーディネーターとして活躍するケースが多いと考えられる。コーディネーターの活動に活用できる時間が限られている場合が多いということは、社会貢献への関心が高まり、潜在的にも増えていると考えられる「地域と連携して、何か活動を行ってみたいが、続けられるか不安」と感じる人たちにも同様であり、地域資源を活用し、学ぶ場を生み出すコーディネーターを増やし、定着させるためにもより一層の工夫が必要と考えられる。

工夫の例として、講座では「チーム制を導入(フォローしあえる体制)」「サポート体制を整える(アドバイザーや事務局の存在。実践までのペースメーカーとしても機能)」を導入したが、より一層の取り組みとして、事務局がフォローをしすぎることなく自発的な活動のためにも「チームビルディング(複数のメンバーがそれぞれの個性や能力を最大限に発揮し、1つの目的に向かって一丸となって進んでいくため、チームをまとめる手法)」に集中した回を講座に追加することが考えられる。その中で、チームのリーダーを決め、それぞれ得意な分野から担当を決め、実践まで邁進する仕組みをしっかりと作る事が重要である。

また、「実践」を行うことも非常に大きな効果がある。実際に実践として3月10日(日)に講座を企画・運営した「異業種チーム」は、振り返りの中で「自分たちの活動のペースを考える」という視点を新たに持っていた。自分たちの活動の目的を果たすための要件、そのために必要な時間などは実践を行ったからこそ見えてくるものであり、継続的な活動をするためにも必要な要素であると言える。

もう一方の課題、「地域との連携をより深めていくための工夫を続ける」については、まず第一にみらい館大明(地域)にある資源、おとな大学が持つノウハウやネットワークを活用することが考えられる。

3月2日(土)に実践を行ったもう1つのチーム「子ども班」の妊婦体験ジャケット(2体)は保健所よりレンタルを行ったが、豊島区文化商工部学習・スポーツ課からのご紹介で実現まで至った。通常は学校への貸し出しが中心という事で、今回、区と連携することで新しい事例をつくることができたように考えられる。

今は「うまくつながっていないものをつなぐこと」がコーディネーターの重要な役割であるなら、こういった講座が開催される事で、運営者・参加者のみならず関わるすべての人たちが「コーディネーター」としての役割を担っていることになり、1つの実践が多くの人に影響を与えていることになる。これも【実践】の大きな効果であった。

今回の講座は、開催地であるみらい館大明、おとな大学が大切と考えたテーマ(①若者の学び場 ②子どもの教育 ③多世代交流 ④異業種交流、連携)を課題に案を考えてもらったが、それはどの地域にも転用できるテーマでもあった。ある地域特有の課題やテーマを講座に盛り込む事で、独自性を深めた講座を開講する事も可能だと考えられる。

さらに、一度実践を行い、活動を続けたいとってくれた各チームにとっての次の課題は「地域の資源を活用し、新しい価値を生み出し続けること」である。

そのためのサポート体制を引き続き整えていくことが、事務局側の課題であり、その準備として、2013年5月よりプレオープン予定のブックカフェ(みらい館大明の元図書室スペースを活用)を舞台に講座を開催またはコーディネーターたちが活動を続けられるような仕組み、2016年オープン予定の生涯学習センター内での取り組みとして継続できるよう検討を進めている。

若者たちの、「いまの社会に少し足りないものを、自分たちで足していく」という実践に対し、並走することが出来る「場」と「人」がいれば、そこは地域資源を活用した学ぶ場にすぐにでもなり得る。その意味で「講座」と「実践」をセットにした今回の手法は非常に有効であると考えられる。

今後も、池袋にあるみらい館大明を舞台として、豊島区・NPO 法人いけぶくろ大明・NPO 法人NEWVERY が連携をしながら、おとな大学での実施を続けていく予定である。

5. 資料集(講座内で使用した資料など)

①資源を活用した「育てるブックカフェ講座」

夏の課題解決プロジェクト～育てるブックカフェ～
「本棚をゼロからつくる」

【対象】高校生、大学生など学生～社会人(30歳まで)

【場所】みらい館大明 元・図書室

【講師】幅允孝さん(ブックディレクター/BACH(バッハ)代表)

荘田賢介さん(古本、リトルプレス、雑貨の鎌倉「books moblo」店主)

山本絵美(おとな大学ディレクター)

.....
【スケジュール(予定)】

◇第1回 9月1日(土) 14:00～17:00

- ・「育てるブックカフェ」講座について
- ・幅允孝さんのお話(ブックディレクター/BACH(バッハ)代表)
「本」と「場所」について考える／自分にとっての本とは?・・・
- ・持ち寄った「私がおすすめしたい本」を使って、グループワーク

◇第2回 9月15日(土) 14:00～18:00

- ・ホームワーク:ブックカフェの仕掛けについて
- ・荘田賢介さんのお話(鎌倉「books moblo」店主)
本棚をディレクションする／どんな本をどんなふうに見せる?・・・
- ・チームに分かれて、おとな大学蔵書をみながら、テーマ決め／グループディスカッション

◇第3回 9月22日(土) 14:00～17:00

- ・「ブックカフェの本棚」 中間発表&フィードバック
展示に使いたいみらい館大明の「資源」を提案、豊島区立中央図書館への本貸し出し申請。
進行:山本絵美(おとな大学ディレクター)、おとな大学事務局

◇第4回 9月29日(土) 13:00～16:00

- ・「ブックカフェの本棚」 デモンストレーション @大明祭り
※地域の文化祭開催中に実際に「本棚」の展示を行います

◇第5回 9月30日(日) 14:00~17:00

・本棚デモンストレーション フィードバック

講師: 荘田賢介さん(鎌倉「books moblo」店主)

山本絵美(おとな大学ディレクター)

おとな大学事務局

【講師プロフィール】

第1回: 幅 允孝(はば よしたか)

BACH(バッハ)代表。ブックディレクター。

人と本がもうすこし上手く出会えるよう、様々な場所で本の提案をしている。

羽田空港と原宿にある「Tokyo's Tokyo」や、二子玉川「フォーティーファイブ・アール」などショップでの選書や、千里リハビリテーション病院のライブラリー制作など、その活動範囲は本の居場所と共に多岐にわたる。著作に『幅書店の88冊』(マガジンハウス)がある。

第2回/第5回: 荘田 賢介(しょうだ けんすけ)

鎌倉に構える、古本・リトルプレス・雑貨の「ブックスモブロ」店主。

都内でサラリーマンとして勤めていたが、2011年9月に鎌倉大町に古書店をオープン。

2012年6月には鎌倉の街と人を本でつなぐ古本市

「ブックカーニバル in カマクラ」を開催、当日は大勢の来場者で盛り上がった。

次回開催に向けた準備も始めている。

進行: 山本絵美(おとな大学ディレクター)

映画祭スタッフ、映画情報サイトのスタッフ等を経て、ミニシアター系映画の配給・宣伝に携わる。

2011年より、若者支援を行うNPO法人NEWVERYに所属、同年11月より開校したおとな大学ディレクターを務める。

②各チームのアイデアシート

(若者の学び場チーム)

おとな大学

「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」 ～人とまちが元気になる方法をまなぶ10日間～

！企画シート！／テーマ：若者の学び場

企画名 キャッチーに！	未定 仮)「本棚作り」で自分もコミュニティも豊かになり、夢が見つかる！ 仮)「本棚作り」を学ぶ者は自分とコミュニティを豊かにし、夢を見つける者である。
メンバー	「受講生」は最大10名程度 講師に、インテリアデザイナー／インテリアコーディネーター／大工さん／お洒落な部屋を持つ地域若者住民等
開催場所	みらい館大名（工作室？）
なぜやるのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きで本棚が欲しい。ただし既製品は結構高い。部屋の空間に合った「壁一面の本棚」が自分で安く作れたらいいなあという素朴な思いから。 ・「やりたいけど一人ではやれないなあ」を「みんなならやれる」に。（金銭面、技術面、手間） ・体験型であり、身につけることより技を習得して自信がつき豊かになり、人にもそれを提供することができる。（家族や友人、地域の人などに教えることでコミュニティが豊かになる。）
どのように？ （具体的な内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクワクさんのような、講師を呼ぶ。（技術者であり、お洒落で空間に柔軟な本棚を作れる人） ・体験型。参加者にはカンナや釘打ち、やすりがけや組立などまで実際にやってもらう。 ・事前に10名の参加者から、自分の部屋を公開してもらう人をつのる。（間取りや空間など）その上で、当日はその人用の本棚を講師がメインとなり、参加者全員で作る。） ・建材や端材等、地域の土建屋さんなどから使える資材をもらうことで材料費はゼロとする。 ・自分で使いたい材料や板などがあれば自分でもってきてももらうことでもよい。 ・作成の講座の前に、数回座学やフィールドワークを行う。具体的には、インテリアコーディネーターや空間コーディネーターの方の講義や、実際のお洒落部屋を訪問する。
期待される効果は？	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながり創出（地域内・家族内・友人同士） ・モノ作りという「なりわい」「スキル」を習得することで、心や生活が豊かになる。「創作力」 ・お洒落な棚やそれを含めた空間に愛着が出て、心や生活が豊かになる。 ・読書を促すことで、さらに学ぶ場（キッカケ）につながる。

おとな大学

「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」
～人とまちが元気になる方法をまなぶ10日間～

！企画シート！／テーマ：多世代交流

企画名 キャッチーに！	みんなで守るいけぶくろ（仮）
メンバー	多世代チーム
開催場所	みらい館大明
なぜやるのか？	地域で自分ができる事を考えたり、協力し合う方法を考えたりするきっかけづくり。交流を通してつながりを強める。
どのように？ (具体的な内容)	☆グループディスカッション（世代別） ↓ 共有 ↓ ☆自分たちにできること、得意な事を考える ↓ 共有 ・防災グッズ作り ・ケータイ通信講座 ・できることゼッケン
期待される効果は？	・地域とのつながり ・安全性の強化

(異業種交流チーム)

おとな大学
「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」
～人とまちが元気になる方法をまなぶ 10 日間～

！企画シート！／テーマ：異業種交流、連携

企画名 キャッチーに！	地域の力で仕事も生活もうまくいく！25歳からの仕事相談！ ～私らしい働き方を見つけよう！～
メンバー	工藤 隈田
開催場所	みらい館 大明
なぜやるのか？	就職して3年ほどたち、こんな社会だしこれから生活や仕事をどうしようか悩んでいる若者が私のまわりでも結構いる。 転職とか、プライベートな話題は上司にも同僚にも相談しにくい。また、大学生の時に就職活動はしたけど、そこで仕事って終わりじゃない、その後の方がもっと大切。 実際にある転職先決まった20代の女性が、本当にソコでいいのか悩んでいた。そこで、私が、仕事経験の豊富なおじさんを紹介した。そしたら其の方が転職先に業界に詳しい方を紹介してくれ、結果解決した。 そこで、地域のいろいろな業種、主婦、学校の先生などを集めて、ディスカッションをしたら若者の役に立ち、地域の役に立つのではと思ったから。
どのように？ (具体的な内容)	社会に出て何とか自分のやりたい方向、興味があることがわかってきた。しかし、今、目の前の仕事の事、将来のことに悩んでいる25～30代の若者達。人生経験、仕事経験豊富な地域の大人たちが、若者と、ディスカッションを通して、今悩んでいることを共有、解決していく。イベントの進行として、まず最初の一時間今旬のビックなゲストを呼び仕事や生活について講演してもらう。その後、地域で仕事しているおじさんたちが自分の自己紹介、後、若者たちの質問に答えていく。(予め質問を集めておく) その後懇親会。
期待される効果は？	仕事の上司などには相談できないことをこの会で話し、おじさま達から人生経験を聞くことで、悩みを解決できる。また解決のキッカケとなる。同じ悩みを持っている人がいることを知ることで、不安の解消にもなる。

おとな大学

「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」
～人とまちが元気になる方法をまなぶ10日間～

！企画シート！：子育て、子どもの教育

企画名 キャッチーに！	KIDS ハローワーク、地域のオープンキャンパス、キッズニア大明。。など固まらず。
メンバー	よね、やす、くりはら
開催場所	商店街・学校 大明グラウンド
なぜやるのか？	学校教育で担保できない教育がたくさんあるから。 地域資源を活用して、そういった教育をうける機会を提供する 結果それが地域の魅力＝ここに住みたい、というモチベーションにつながる
どのように？ (具体的な内容)	地域の多様な職業の人々との接点をお祭り仕立てで提供する。 ↓ <具体的な仕立て> 地域のオープンキャンパス あるいは大明を舞台にしたキッズニア
期待される効果は？	地域を巻き込んだ子育て支援への契機 色んな学ぶべきこと・面白いこととの接点を提供される。 いろんなことが世の中にはあるなあ、これは面白そうだなあ、みたいなことが来場者＝子どもから聞かれれば OK 結果、子育て世代が増えることにより地域の活性化の契機とする



**何をやる
のか？**

3

**妊娠後期女性
を対象とした
街歩きツアー**

4

なぜか？

5

**妊娠後期、
いろんなことが
推奨されている。**

6

**安産のため
には運動が
必要**

(中野中央病院医師)

7



**子どもの発育と、
野外での活動は
密接に関わって
いる**

(臨床育児・保育研究会 代表 汐見稔幸)

9

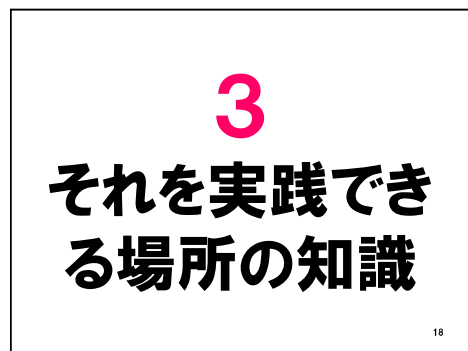
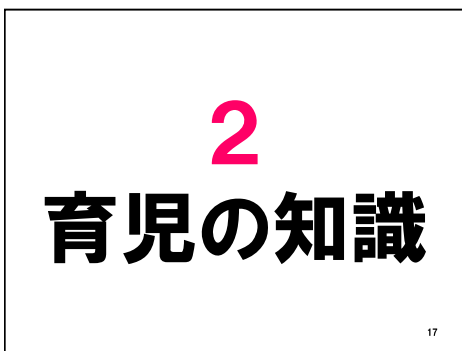
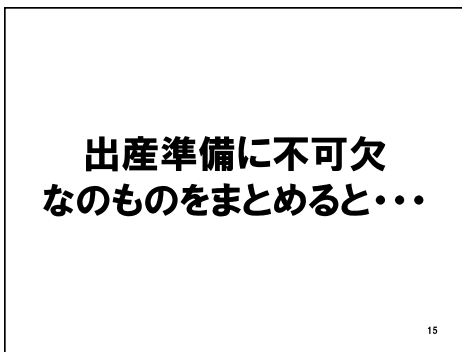


**お母さんが
HAPPYでないと
子どももHAPPY
にはならない**

(松が丘助産院 院長 宗 祥子)

11







こんな仕立てで
考えてます。

20

13:00～
集合

21

13:00～14:00

座学

ゲストを招いて子育てに
必要な知識をインプット

22

14:00～15:30

街歩き

ゲストがガイド。
実践の場を
街歩きしながら紹介

23

これで
運動×育児の知識×実践
が見事実現

24

でも実は。。。
まだまだいいこ
と有るんです。

25

副次的効果

26

コミュニティ形成

ツアーは複数回・産前から
お母さん仲間を作ります。

27

自治体へのFB

街歩き結果を
豊島区地域まちづくり課へFB。
リアルな声を届けます。

28

つまり、

29

今の街を
如何に
楽しむか

30

**未来の街を
如何に
よくしていくか**

31

**その2つを
結びつける
イベントです。**

32

**イベントで、
僕らがすること**

33

**ツアーの企画と、
ゲストのアサイン**

34

**こんなツアー
やりたいです**

35

ご近所公園めぐりツアー

ガイド 京都大学 田中伸介先生×まちの生き字引さん
発達心理の第一人者とまちの生き字引
さんが、子どもに最適な公園を紹介。
なぜその公園がいいのか、そこではどん
なことをすることが大切か36をレクチャー
その後、実際に公園に行ってみる！

36

お母さんリラククスツアー

ガイド 検討中

豊島区には、いろんな文化施設、歴史施設がある。
その中で、お母さんが子どもを安心してつれていけて、
かつお母さんも楽しめるのは、いったいどこか??
前半は上記、地域資源の紹介、午後は、実際にそこ
にいて、遊んでみる!

37

他にも!

子連れで楽しいカフェツアー

これで安心、病院ツアー

自分にあつた、託児施設はこれ

! 幼稚園・保育園ツアー など

38

実行上の
リスクは結構ありますが、
僕らは、このイベントがこ
の街の魅力を最大限引き
出すと信じています

39

ご清聴あり
がとうござ
いました。

40

おとな大学
地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座
新規講座企画プレゼンテーション

2012/10/28
多世代交流チーム

何の写真でしょうか？



企画を考えた経緯

- 2011年12月、仙台市近郊の被災地を訪れました。



企画を考えた経緯

- 生活基盤は破壊され、自然も破壊され・・・何もなかった状況でした。

Before After



企画を考えた経緯

- 生活基盤は破壊され、自然も破壊され・・・何もなかった状況でした。

Before After



企画を考えた経緯

- その中で、印象的な話がありました。



企画を考えた経緯

東日本大震災が発生した3月11日午後2時46分、宮城県東松島市のJR仙石(せんせき)線「野蒜(のびる)駅」を出发した上下2本の電車があった。

<p>上り電車</p> <p>仙台方面の「あおば道」行き普通電車(4両編成)は午後2時46分、野蒜駅を出发した。事故に強い鉄骨製車体もある。乗客は安全。</p> <p>乗客は命を落とした。</p> <p>※、乗客自身は乗客の指定避難場所などに安全を確保する内規がある。</p>	<p>下り電車</p> <p>下りの「石巻」行きの快速電車(4両編成)も野蒜駅を発車直後、突き上げられるような揺れが来た。乗客は安全だった。</p> <p>乗客は無事だった</p> <p>車内にいた方が安全だ1位、その言葉に従った。</p>
---	---

企画を考えた経緯

旅で感じたこと

地域を知ること、自分を助けること

企画を考えた経緯

果たして東京では・・・どうなんだろうか

- 地方から出てきた人も多い
- 電車で移動することも多い
- 会社と家の往復

ちゃんと住んでいる場所や働いている場所の特性を知っている？

企画を考えた経緯

ちゃんと地域のことを知って、いざという時に正しいアクションをとってほしい

企画のコンセプト(概要)

- ワークショップを通して、安心MAPを作ります。
 - STEP1: 危険な場所・ことをみんなで探します。
 - STEP2: 見つけた危険に対して、解決策を解決する方法を学び考えます。
 - STEP3: 地図にマークを付けていきます。

ワークショップ

まずは池袋(大明付近)をターゲット

池袋安心MAP

こうしたら解決できる!

【参考】試しにやってみた!

- みらい館大明の危険な場所をちょっとだけ調査してみました。

密集した民家

古い民家(木造?)

ワークショップの中身

●約半年を通して、6回のワークショップを開催し安心MAPを作っていくことを考えてみます。

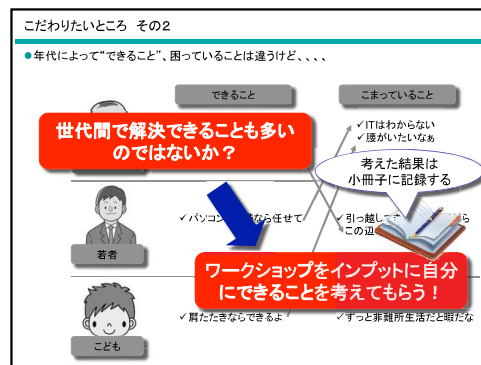
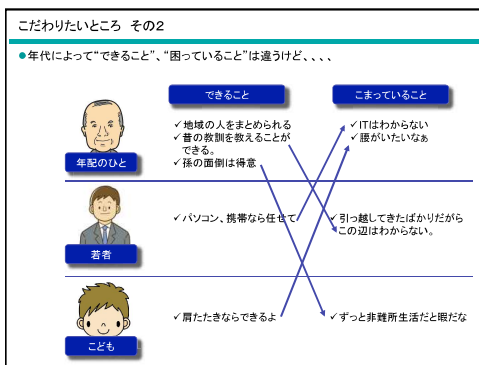
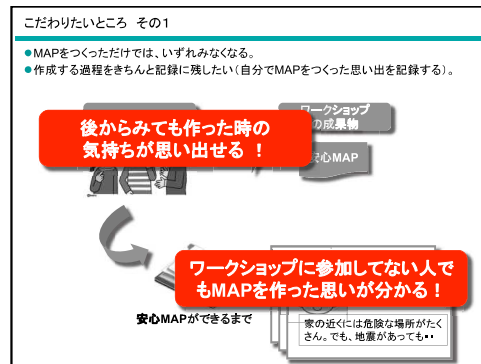
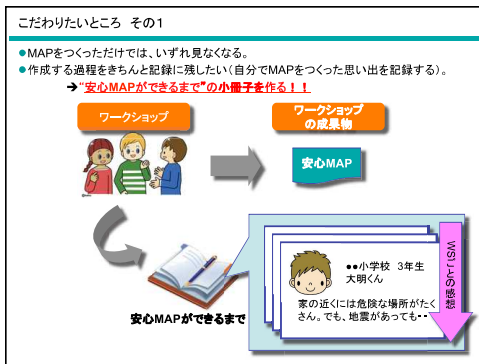
STEP 1	ワークショップ #1	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域を知ろう！！ ✓ 大町付近を歩いて地域の危険なところを探しにいき、参加者でシェアし地図に書き込む
STEP 2	ワークショップ #2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 昔あった災害の話 ✓ 大町付近に長く住んでいる方にお話を聞き、安全対策を考える。
	ワークショップ #3	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 池袋防災館について見よう ✓ 池袋防災館で救命や災害体験をして、安全対策を考える。
	ワークショップ #4	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元の消防団の話を知ろう ✓ 実際に災害があったと想像して、どのように行動したら良いか実践してみよう(火消し体験)
	ワークショップ #5	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 非難シミュレーション ✓ 大町の周辺から実際に非難をしてみても、感じたことをみんなで考えてみよう
STEP 3	ワークショップ #6	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安心MAPを完成させよう ✓ WSで分かったこと整理して、危険ポイントへの解決策を考えてみよう。 ✓ 自分からできることは何か考えて解決策を決定してみよう！

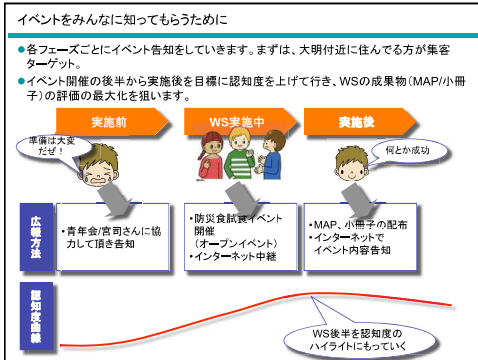
ワークショップの中身

●約半年を通して、6回のワークショップを開催し安心MAPを作っていくことを考えてみます。

STEP 1	ワークショップ #1	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域を知ろう！！ ✓ 大町付近を歩いて地域の危険なところを探しにいき、参加者でシェアし地図に書き込む
STEP 2	ワークショップ #2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 昔あった災害の話 ✓ 大町付近に長く住んでいる方にお話を聞き、安全対策を考える。
	ワークショップ #3	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 池袋防災館について見よう ✓ 池袋防災館で救命や災害体験をして、安全対策を考える。
	ワークショップ #4	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元の消防団の話を知ろう ✓ 実際に災害があったと想像して、どのように行動したら良いか実践してみよう(火消し体験)
	ワークショップ #5	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 非難シミュレーション ✓ 大町の周辺から実際に非難をしてみても、感じたことをみんなで考えてみよう
STEP 3	ワークショップ #6	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安心MAPを完成させよう ✓ WSで分かったこと整理して、危険ポイントへの解決策を考えてみよう。 ✓ 自分からできることは何か考えて解決策を決定してみよう！

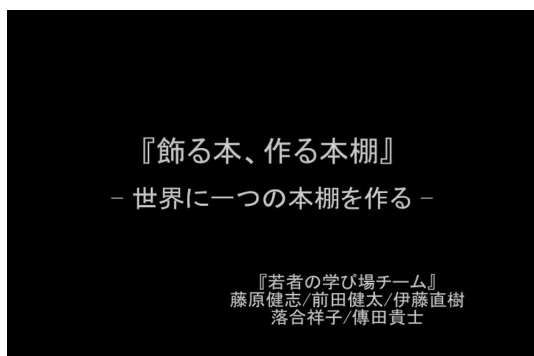
ワークショップの具体的な内容は地域特性を出したいので地域の皆さんと相談させてほしいです。





ご清聴ありがとうございました。

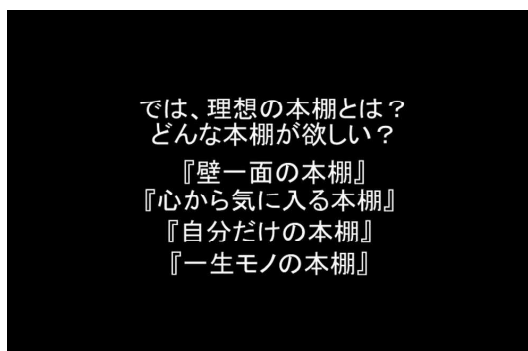
(若者の学び場チーム)



1



2



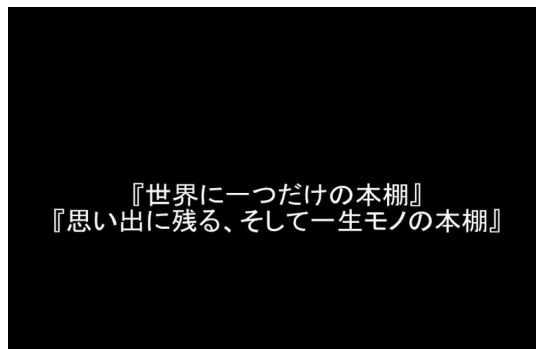
3



4



5



6

ワクワクしませんか？

7

『若者の学び場』としての
本棚作り

ナリワイ、手作りの技術
読書すること自体
夢・やりたいこと

8

『地域性』

①豊島区の歴史と現在の工業

9

『地域性』

②トキワ荘プロジェクト

10

『地域性』

④おもしろいことをやれば
それが地域性になる。

11

『地域性』

③作ることで「つながり」が生まれる

12

④企画書 2.0

別紙1(若者の学び場チーム)

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

タイトル(キャッチコピー)																			
対象者	読者が好きな高校生から60歳くらいまで、又はブライカフェやフリースペース運営に関わる方。																		
主旨	実際に本棚を自作しよう! ということを通じて若者を中心に学びとつながりの機会を提供する。																		
ねらい	① Do it yourself の精神および技術を学び、身に付けてもらう。 「一人ではやれないな」と「みんなで作ろうか」と。 ② 身に付けたスキルをシェアを通じたつながりの創出。 ③ 若者に読者を促し、さらに学びの場につながる! "夢の実現"																		
回数/時間	全5回/毎週土曜日 または 日曜日開催 / 各回2~3時間																		
開催日時	2013年2月16日(土) ~ 3月31日(日) の中で / 毎回10~12時																		
会場	みらい館 2F おとな大学																		
具体的な内容	第 1 回	3/6(土) 本棚作りへの条件確認(厚さ) 設計図/解体の方法を指導	講師、スタッフ ・本棚作りに関心の方																
	第 2 回	木の調達 (バケリ-へ見学) 解体して、木材を調達 → 建具屋へカット	・建具屋さん ・建具屋さん																
	第 3 回	③ 材料を置く → 本棚用の下穴をあける → 組立開始 ④ 組立 → 塗装(下塗り)																	
	第 4 回	⑤ 上塗り & ヤスリかけ → 仕上げ塗り → 裏板のとりつけ(完成)																	
	講師候補者とプロフィール	・ 清く正しい本棚の作り方 若者戸口 → 及至は20代若者の方の中 ・ 堅い本棚の作り方 URL 管理人 ・ 地元の職人さん																	
参加人数(定員)	10名																		
募集方法	広報はおとな大学公式サイト、ウェブサイト(Facebook & twitter を中心に)、豊島区広報を活用。 また、おとな大学が主催するイベントの取組と連携も行う。																		
予算、経費	<table border="0"> <tr> <td>本棚 150円</td> <td>木工ボンド 100円</td> <td>本棚費 約2,600円</td> <td>本局経費 10,000円</td> </tr> <tr> <td>釘 100円</td> <td>塗料 1,500円</td> <td>※本棚14本あり</td> <td>印刷費 5,000円</td> </tr> <tr> <td>木工テープ 50円</td> <td>紙ヤスリ 1,000円</td> <td></td> <td>送料 0円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ハケ 700円</td> <td></td> <td>材料費 12,000円 (1台)</td> </tr> </table>			本棚 150円	木工ボンド 100円	本棚費 約2,600円	本局経費 10,000円	釘 100円	塗料 1,500円	※本棚14本あり	印刷費 5,000円	木工テープ 50円	紙ヤスリ 1,000円		送料 0円		ハケ 700円		材料費 12,000円 (1台)
本棚 150円	木工ボンド 100円	本棚費 約2,600円	本局経費 10,000円																
釘 100円	塗料 1,500円	※本棚14本あり	印刷費 5,000円																
木工テープ 50円	紙ヤスリ 1,000円		送料 0円																
	ハケ 700円		材料費 12,000円 (1台)																
必要機材、機器	・ トリカチ ・ 電動ドリル(ドライバーで可) ・ バケリ ・ 布巾 } 地元の業者さんからお借りする																		
参加者負担経費	・ 自分所有の場合は材料費 10,000円 + 参加費 3,000円 ・ 参加費のみ 10,000円 } 協賛企業として掲載 = メリットに																		
実施の効果	(参加者にとって) (おとな大学/大明/豊島区にとって) → 上記「ねらい」の通り。 「まちづくり」の推進、地域から																		
進め方(運営上の工夫など)	・ 企画側スタッフに、最低でも1人事前に作ってもらえるか。サポート役として。																		
その他	・ 自分のものでちゃんと作ることに挑戦することが多い。 ・ 一方で、自分で作るに際しての輸送方法・コストも課題																		

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

企画	タイトル(キャッチコピー)	みんなで作る安心MAPプロジェクト			
	対象者	小学生から高齢者 (車いすでの参加も可能)			
	主旨	安心MAP作成を通して、災害時に起きうる問題と解決策を見出す。多世代で活動することで、地域の交流を深める。			
	ねらい	①みらい館大明の防災拠点としての機能を知ってもらう。 ②防災意識を高め、災害時の正しい行動を知ってもらう。 ③地域のつながりを強める。			
	回数/時間	全6回(1回のみ参加も可能) 月に1回土曜か日曜に開催 10:00~12:30			
	開催日時	2013年2月~7月			
	会場	みらい館大明			
	具体的な内容	第 回	内容		講師、スタッフ
		1	炊き出し体験・みらい館大明ウォークラリー		町内会、大学生ボラ
		2	地域の方の話を聞こう・大明地域を歩こう		区防災課、大学生ボラ
		3	池袋防災館にいってみよう		消防署、大学生ボラ
		4	消防団と消火体験・非常用食品試食会		消防団、大学生ボラ
		5	避難シミュレーション・できるゼッケンを作ろう		町内会、大学生ボラ
6	安心MAPを完成させよう		大学生ボラ		
講師候補者とプロフィール	区防災課、池袋消防署、大明地域の消防団員、町内会				
参加人数(定員)	各回30名				
募集方法	みらい館大明内でのポスター告知、小学校へのピラ、町内の回覧板、可能なら区報としま (受け付けは直接か、メール)				
予算、経費	炊き出し400×30=12000 非常食500×30=15000 必要教材費5000 印刷費20000 運営費30000 雑費8000 合計90000				
必要機材、機器	プロジェクター				
参加者負担経費	無料				
実施	実施の効果	(参加者にとって) 防災の意識が高まる。地域住民でない場合も地元を持ち帰ることができる。 (おとな大学/大明/豊島区にとって) 区→防災課のPRになる。大明→地域の結びつきが強くなる。おとな大学→新しい防災教育の発信			
	進め方 (運営上の工夫など)	・共通体験→気づきの共有→安心MAPに反映 ・大学生ボランティアを募ることで、多世代でのプログラム実施を可能にする			
その他	スタッフは事前に豊島区防災課の講座を受けておく。				

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

タイトル(キャッチコピー)		新しい働き方スタートアップセミナー	
対象者	新しい働き方をテーマに、より人生を楽しみたい、20代半ばから30代前半の会社員 (問題提起:大学生は社会人に相談できる。20-30代の社会人は誰に相談するの?)		
主旨	新しい働き方に関心がある人に、本業以外の働き方のきっかけを提供する。 実際に本業以外で自分のやりたい仕事をやっている人と対話をする。		
ねらい	①「こんな働き方があるんだ!」という気づきや、参加者自身による個性の再確認によって、 自分のやりたい仕事のイメージを具体化するきっかけの場を提供する。また講座を通じた参加者同士の交流を図る。 ②聞くだけでなく、対話形式にすることで、①の作業を深める。 ③講座を通じた参加者同士の交流から講座終了後の継続的な活動につなげていく(今後の展開)		
回数/時間	1回/2時間		
開催日時	第1回 2月16日(土曜日) 16-18時(その後飲みに行く予定)		
会場	みらい館大明		
企画	具体的な内容	第 回	ゲストスピーカーに話してもらう内容
		第 1 回	講師、スタッフ (交渉中) ①なぜ本業以外の仕事をしようと思ったのか。 ②本業をしながら、どうやって今の仕事を見つけたか。 ③どのように仕事としたのか。どうやって持続しているか。
	講師候補者とプロフィール	(交渉中) 講師のイメージ:サラリーマンとして働きつつ、ジャズシンガーとして収入を得ている方	
	参加人数(定員)	20~30人	
	募集方法	<ul style="list-style-type: none"> おとな大学さんの広報 勉強カフェ、NPO法人CRファクトリーのメーリングリスト(交渉中) +α(検討中) 	
	予算、経費	<ul style="list-style-type: none"> 講師料:1万円 機材の費用 	
	必要機材、機器	機材:会議机、椅子、プロジェクター、印刷資料、スクリーン、缶ビール、PC ・みらい館大明の使用料	
	参加者負担経費	2,100円(お酒)	
実施	実施の効果	(参加者にとって) 多様な働き方を知れる。 自分の強みを考える機会ができる。 (おとな大学/大明/豊島区にとって) おとな大学の本来である「若者の学べる場作り」に貢献できる。 前向きな若者を豊島区に呼び込むことで、街が活性化する。 (講師の方にとって) ...	
	進め方 (運営上の工夫など)	<ul style="list-style-type: none"> アイスブレイク (自己紹介→4, 5人のグループで〇〇を話し合う) ゲストとの対話(講師の方)に4, 5人グループの中に入れてもらうことで、より密で直接的な交流を促す) 食・お酒を通じて場がほぐれる(自然なコミュニケーションが生まれる) 【課題】講座のリアルタイムの情報をどう伝えるか(参加できなかった人を悔しがらせるような情報発信をしない) 	
	その他		

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

企画	タイトル(キャッチコピー)	プレマのための安心子育て街歩きツアーin池袋～生まれてくる赤ちゃんのために、まちのこと、育児のことを学ぼう～		
	対象者	妊娠6～8ヶ月の妊婦(子育てに興味関心の有る人も広く、参加可)		
	主旨・概要	妊娠後期女性を対象とした街歩きツアー		
	ねらい	全6回を通して、出産・子育ての不安を解消し、地域のことを知り、仲間を作り、豊島区で出産・育児をしていくうえでの安心感を抱いてもらう		
	回数/時間	全6回(大明の理事長 街の小学校入学までをコンテンツとする。)生まれる前、0歳 4歳		
	開催日時	土日 13:00~15:30(2h30)		
	会場	座学:大明図書室 ツアー:大明周辺		
	具体的な内容	第 回	内容	講師、スタッフ
		1	■イントロ 「bloom」上映会 参加者アイスブレイク / 大明ってどんなところ?	大明理事長/子ども班
		2	■座学・乳児期前半・後半/街歩き・安全なウォーキングルート	発達心理の先生/子ども班・助産師さん
		3	■座学・幼児期初期(1・2歳)/街歩き・子連れで楽しむエトセラ 出産後に子連れでも安心して楽しめるスポットを紹介	発達心理の先生/子ども班・助産師さん・編集者とか、そういうオシャレサイトに詳しい人
		4	■座学・幼児期中期(3・4歳)/街歩き・気分はセンス・オブ・ワンダー 池袋で自然に触れる 一人遊び編 幼児期中期は一人遊びが盛んになる時期。自然に触れながら、安心して遊ばせられる場所を紹介	発達心理の先生/子ども班・助産師さん
		5	■幼児期後期(5・6歳)/街歩き・気分はセンス・オブ・ワンダー 池袋で自然に触れる 集団遊び編 幼児期後期は相手の気持ちがわかる時期。遊びも一人より、みんなでやるように。子どもが集まるコミュニティを紹介	発達心理の先生/子ども班・助産師さん
	6	■クロージング/FB座談会 実際に街歩きをしながら、出てきた要望を伝える	役所の人/子ども班	
	講師候補者とプロフィール	座学講師:幼児保育・発達心理に知見のある人。立教・日本女子あたりの先生。他に「パパとママになる前に」など。 ツアー講師:地域に住む年配の助産師(安全性の担保。土地勘の把握)		
参加人数(定員)	5名程度			
募集方法	助産院か、区主催の育児講座にて告知。7分くらいで、プレゼンさせてもらう			
予算、経費	1回あたりー講師謝礼:30,000円(15,000円×2名) 会場費 20,000円			
必要機材、機器	テキスト・PC・プロジェクター・スクリーン等。座学講師のレクチャーに準ずる。			
参加者負担経費	参加者負担0円 既存の母親学級の一環として実施 どうにか区からお金をもらう			
実施	実施の効果	(参加者にとって) 子育ての知識の修得。子育てをできる場所の把握。地域コミュニティ形成 (おとな大学/大明/豊島区にとって) 街歩き結果を豊島区地域まちづくり課へFB。リアルな声を届けます。		
	進め方(運営上の工夫など)	○13:00~14:00 座学 ○14:00~15:30 ツアー ポイント 昼食後からゆつくり参加。参加しても夕食の準備に余裕がある時間帯。ツアーには地域に住む、助産師をアサイン。安全性と土地勘を担保。		
その他				

⑤【実践】企画書

(子育て・子どもの教育チーム)

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

タイトル(キャッチコピー)	妊婦体験ジャケットをつくり、実際に着てアクティビティを体験しよう		
対象者	地域を学び場に変えるコーディネーター養成講座 受講生		
主旨	イクメンなど男性が育児に関わる機会は増えているなか、体験キットが高額であることも影響し、「妊婦」について知り、体験できる機会がまだまだ少ない。男性だから、と境界線を引いてしまうのではなく、同じ経験を疑似で知る事で、知識だけでなく経験値として深めていく。		
ねらい	こういった性別に関わらず学べる機会を継続していくためにも、こども班の本気感を伝える。 また、ユニークな切り口を意識することで、「参加してみたい」と思ってもらえるよう活動のハードルを下げ、仲間を募っていく。		
回数/時間	1回、10時～11時		
開催日時	3月2日(土) 10時～16時予定		
会場	閉校施設: 未来館大明(ブックカフェスペース)		
企画 具体的な内容	第 1 回	内容	講師、スタッフ
		10:00～ 1.体験キット作る&撮影 11:00～ 2.買出し・昼食 12:30～ 3.帰宅・前半のシェア 13:00～ 4.妊婦アクティビティ<日常系> 歩く、階段を登る、しゃがむ、荷物を運ぶ、掃除をする・・・ 13:30～ 5.妊婦アクティビティ<アクティブ系> だるまさんが転んだ 14:00～ 6.後半のシェア 16:00 終了予定	こども班 宮本・小泉・栗原・米川・高橋
講師候補者とプロフィール	今回は講師はなし。体験型ワークショップとして開催。		
参加人数(定員)	10名程度		
募集方法	ソーシャルメディアなど		
予算、経費	柔道帯 × 4 ¥3,308 砂(20KG) × 2 ¥640 袋 × 5 ¥500 バーカ × 4 ¥5,960		
必要機材、機器	上記備品 / 記録用デジカメ、パソコン/ 見本として、妊婦体験ジャケット 2体(豊島区保健所よりレンタル)		
参加者負担経費	無料		
実施	実施の効果	(参加者にとって) 子ども班にとって、自分たちの企画を実践することで、継続した活動につなげるためのブラッシュアップの機会とする。 (おとな大学/大明/豊島区にとって)1着6万円する高価な妊婦ジャケットを作成するノウハウを公表することで、今回のような体験の場が広がっていくきっかけにつなげる。	
	進め方(運営上の工夫など)	不慣れな妊婦体験ジャケットを使用するため、いつも以上に周囲に注意を払い、行動すること。	
その他			

Copyright 2011 おとな大学. All Rights Reserved.

おとな大学「地域を学ぶ場に変えるコーディネーター養成講座」企画書2.0

企画	タイトル(キャッチコピー)	「自分の“働く”は自分でつくる！」 ～人と人をつなぐツクルバから見える、“オンリーワン”な歩き方～		
	対象者	納得できる生き方、働き方を探している若者		
	主旨	働き方の選択肢が広がっているいま、若者の「働き方」について可能性を広げるための機会として、ロールモデル(お手本)となる最前線の大人と若者が直接話し、学べる場を提供する。		
	ねらい	・参加者ひとりひとりが納得できる生き方を見つけてもらう機会として。		
	回数/時間	1回、2時間		
	開催日時	3月10日(日)14時～16時		
	会場	閉校施設:みらい館大明(ブックカフェスペース)		
	具体的な内容	第 1 回	内容	講師、スタッフ
			・中村さんからのお話 ・ディスカッションまたは、Q&A	講師:中村真広さん スタッフ:谷 拓紀さん 隈田 亮太さん 鈴木達也さん おとな大学事務局(1～2名)
	講師候補者とプロフィール	<p>中村真広さん 1984年千葉県生まれ。東京工業大学大学院建築学専攻修了。大学院時代に渋谷「みやしたこうえん」のスケボーパークの基本設計を担当。この経験を通じて、建築が生まれる前段階＝枠組みのデザインに興味を持ち、(株)コスモスイニシアに新卒入社。その後、ミュージアムデザイン事務所(株)ア・プリオにて、ミュージアムの常設展示の企画など、空間を埋めるコンテンツづくりを経験した後、フリーランスのクリエイティブ・ディレクターとして活動。2011年8月に(株)ツクルバを設立、現職。2011年12月にシェアードワークプレイス「co-ba」、2012年5月に日本初のシェアライブラリー「co-ba library」、10月に持ち込んだボトルキープをシェアできる「1K tokyo share dining」をオープン。現在、不動産ディベロッパーとの共同企画プロジェクトや、まちづくりワークショップの企画運営、オフィス設計案件などを行っている。</p>		
	参加人数(定員)	20～30名		
	募集方法	申込受付:おとな大学講公式サイトに記載されている、専用フォームより申込 広報:◎異業種チームそれぞれのソーシャルメディア(twitter, fbなど)にて広報 ◎おとな大学公式サイト、ソーシャルメディア(twitter, fbなど)にて広報		
	予算、経費	・講師料 ・その他講座に必要な機材や、機器、備品についてはみらい館大明より借りられるものを確認。(＊次の項目に詳細を記載)		
	必要機材、機器	(みらい館大明で借りられるもの) ・プロジェクター ・スクリーン ・ホワイトボード ・模造紙 ・ペン ・会議用机 ・小学校用の机(板のところが木製) ・イス		
参加者負担経費	参加無料			
実施	実施の効果	(参加者にとって)普段なかなか会う事ができない最前線の大人と直接会えることで、ロールモデルを発見し、また同じように「働く」ことを模索している異世代(学生×社会人など)、同世代と交流できることで多様な価値観に出会うことができる。 (おとな大学/大明/豊島区にとって)コーディネーター養成講座受講生の方々が、講座で学んだ事を活かし、地域を学ぶ場に変える実践を行う→そのノウハウを活用し、受講生の「やってみたい」が続く、更なる活動につなげていく。		
	進め方(運営上の工夫など)	・講師との距離を縮め、また、参加者同士の交流を促すため、講演後参加者同士が話したり、講師と直接話せる時間を設ける。 ・参加者はイスのみで輪になって座るような形か、グループワークしやすいように最初から分かれて座ってもらう。		
その他				

講座に関わってくださった、全ての方々の多大なご協力に心から感謝いたします。

今回の講座と実践を通じて、参加者の方々の発想力と行動力の素晴らしさ、地域の頼もしさと可能性を改めて実感しました。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

おとな大学事務局